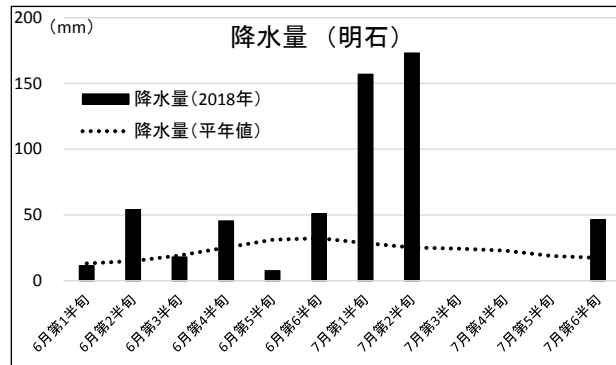
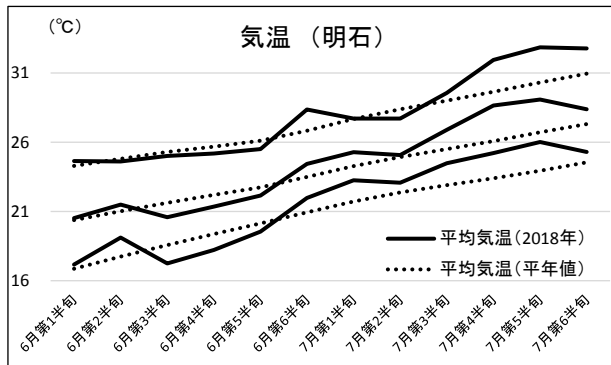


平成30年度 東播磨地域稲作気象台情報 第2号

発行：平成30年8月3日
東播磨農業改良普及事業協議会

1. 気象状況 (気象庁データ [明石]：6月～7月)

7月第3半旬以降、気温は平年に比べて著しく高く経過しています。
また、7月9日から28日にかけての約3週間は、降雨がありませんでした。



2. 生育状況 (県立農林水産技術総合センター [加西市] の気象感応調査結果：7月15日現在)

品種	草丈	茎数	葉数
キヌヒカリ	73cm (平年比101)	322本/m ² (平年比83)	11.6枚 (平年差+0.4)
ヒノヒカリ	45cm (平年比100)	406本/m ² (平年比112)	9.6枚 (平年差-0.7)

3. 病虫害発生程度 (東播磨管内19定点ほ場での予察調査結果：8月2日実施)

	本田払い落とし					本田すくい取り				
	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ツマグロヨコバイ	フタオビコヤガ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ツマグロヨコバイ	カメムシ類
明石・播磨	少	少	無	無	無	無	少	無	少	少
稲美	無	無	無	少	無	少	少	無	少	無
加古川北部	少	中	無	少	無	少	中	無	少	少
高砂・加古川南部	少	少	無	無	少	無	無	無	少	無

	病害調査							虫害調査 (見取り)			
	葉いもち病	穂いもち病	紋枯病	縞葉枯病	ばか苗病	もみ枯細菌病	稲こうじ病	ニカメイガ	イネミスソウムシ	イネツトムシ	コブノメイガ
明石・播磨	無	/	無	無	無	/	/	無	/	無	無
稲美	無	/	無	無	無	/	/	無	/	無	無
加古川北部	少	/	無	無	無	/	/	無	/	無	無
高砂・加古川南部	無	/	無	無	無	/	/	無	/	無	無

今回の調査では、ヒメトビウンカ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイに加え、フタオビコヤガの発生が確認されましたが、密度は低い状況です。

管内2カ所の定点においてカメムシの発生が確認されました。そのうち、加古川市北部の定点では要防除密度となっています。

加古川市北部で葉いもちの発生が確認されましたが、病斑がわずかに見られる程度です。

4. 今後の栽培管理について

(1) 水管理・施肥管理

<キヌヒカリ・コシヒカリ・あきたこまち>

出穂期を迎えています。出穂時は湛水状態にし、出穂後は間断灌水（田面に水がなくなれば水を入れる）を実施して、根を健全に保ちましょう。

<ヒノヒカリ>

中干しを終え入水する時期です。中干し期に発生した新しい根を湛水状態に馴染し、丈夫で活力のある根を維持するため、間断灌水を実施しましょう。

また、穂肥は、幼穂の確認や葉色判断に基づき、適期適量の施用に努めましょう。

（出穂20日前 - 幼穂長2mm程度）

*水稻の出穂期・成熟期の予測

下記URLもしくは右のQRコードから「水稻生育予測システム」にアクセスすることで、主な水稻品種の出穂期・成熟期予測を見ることができます。

http://www.naro.affrc.go.jp/org/warc/server_index.html



(2) 病虫害防除

<いもち病>

葉色の濃い箇所や日当りの悪い箇所は、葉いもちの上位葉への進展により、穂いもちの発生が懸念されます。普通期水稻では、出穂前にいもち病が目立ってくるため、穂肥前に発生していないか水田内に入ってよく観察しましょう。発生ほ場では、発生状況により穂肥の量を減らす、穂肥をやらないなどの対策を実施しましょう。また、多発している場合は、出穂前に治療効果の高い薬剤で防除しましょう。

<紋枯病>

今回の調査では、第4葉鞘以下に発病が見られた定点がありました。気温の高い日が続くと、紋枯病が拡がりやすくなります。特に、昨年多発したほ場や過繁茂の水田では発生に注意しましょう。

<縞葉枯病・ヒメトビウンカ>

近年、ヒメトビウンカがウイルスを媒介する縞葉枯病の増加が問題となっています。出すくみ症状やゆうれい症状のある感染株を発見した場合は、株ごと抜き取りほ場の外に持ち出し処分しましょう。また、縞葉枯病の発生ほ場では注意深く観察を継続し、ヒメトビウンカを低密度に抑えるよう必要に応じ出穂前に防除を実施しましょう。

<ウンカ・ヨコバイ類>

トビイロウンカの発生は確認されませんでした。梅雨前線に乗ってセジロウンカと共に飛来している可能性があります。成熟期の遅いヒノヒカリなどでは、トビイロウンカの発生・増殖が収量・品質を大きく左右するので、出穂前の基幹防除は必ず実施しましょう。

<斑点米カメムシ類>

ほ場の中や畔草で発生が確認され、要防除密度となっている地域があります。出穂前の畦畔等の除草と出穂後の薬剤防除を徹底しましょう。今後も気温の高い日が続くと、カメムシ類が多発し、斑点米の多発生も懸念されるので注意が必要です。カメムシ類は雑草の繁茂しているところに集まり繁殖するので、畦畔の草刈りは出穂の2週間前までに終わることが重要です。同時に周辺の休耕田、池の堤や法面等の草刈りをして、カメムシの居場所をなくしましょう。なお、出穂期の草刈りは、カメムシ類を水田に追い込み逆効果となる場合があるので注意が必要です。多発している場合は、穂揃期頃に防除を行いましょう。

◎薬剤使用にあたっては、必ず使用時期（収穫前日数）や使用回数等の使用基準を確認、遵守し、農薬の飛散防止に努めましょう。

◎**熱中症や事故防止のため、施肥や草刈り等の農作業は日中の気温の高い時間帯を避け、こまめな水分補給・休憩を取りながら無理なく実施しましょう。また、1人で作業をする場合は家族等へ行先や帰宅時間を告げておくとともに、万が一に備え携帯電話を身に付けておきましょう。**

◎次回、第3回稲作気象情報発表は9月上旬です。（9月4日（火）調査予定）

発 行	東播磨農業改良普及事業協議会 (構成員：明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町、JAあかし、JA兵庫南、JA加古川南、加古川農業改良普及センター)
調査協力	NOSAI東播磨、NOSAI兵庫、JA全農兵庫
お問合せ先	加古川農業改良普及センター 地域課 (079) 421-9354 JAあかし 本店 経済課 (078) 934-5800